

天皇陛下御即位を祝う 一般参賀に加わって

柴田 幹雄 陸自75

天皇陛下の御即位を祝う一般参賀が5月4日、皇居で行われた。私は朝7時過ぎから参賀の列に並び、10時のお出ましの少し前に、長和殿ペランダ前の広場に入ることができた。天皇皇后両陛下、皇族方がお出ましになると、参賀者は一斉に手にした日の丸の小旗を振る。

周りにいる人たちはごく普通の老若男女で、若い女性や子供連れなども多い。天皇皇后両陛下の御即位をお祝いし、お姿を一目見て、皇室と日本の弥栄を祈ろうという人々の多さに、驚くとともに大いに感動した。ニュースによれば、当日の参賀者は14万人だった。

平成が始まった時、新たな御代が始まると祝う雰囲気ではなかった。国民は昭和天皇崩御の衝撃と悲しみに包まれつつ、平成を迎えた。テレビの関連ニュースや皇居からの中継映像なども、私の記憶の中でモノトーンに沈んでいたのは、季節が冬であったからだけではなかったように思う。

新たな御代、令和の始まりをこのようにお祝いできるのは、全て平成28年

8月8日の天皇陛下のビデオメッセージでのお言葉が始まった。その中で、健康問題や身体の衰えを考慮し「これまでのように、全身全霊をもって象徴の務めを果たしていくことが、難しくなるのではないか」と案じられた。

このお言葉が生前退位を示唆したものと様々な意見があった。しかし主権者たる国民の圧倒的多数が陛下のお気持ちを受け止め共感した。政府はその世論を尊重するという形で皇室典範特例法を制定し、生前退位と新天皇陛下の即位が現実のものとなった。

平成の時代に、ひとえに国民のことを考え国民に寄り添ってくださった天皇皇后両陛下(当時)への感謝とねぎらいの気持ちが日本中にあふれた。また新天皇皇后両陛下への期待と敬愛の念も大きくなり、皇室への国民の関心が大いに盛り上がった。

長和殿での天皇陛下のお言葉が終わった後、私は鮮やかな新緑の皇居内に乾門まで歩いた。明るい太陽に輝く木々の緑が、新たな時代の明るさを予感させるように、何とはなしに幸せな気分になった。

